

## 第4章 文化財の保存・活用に関する将来像・基本目標

ライフスタイルの変化や都市と地方の格差拡大など私たちの生活には様々な課題があります。一方で、本市では、遺跡や丹後ちりめんなどの地域の「宝物」活用やジオサイトを守り次代へ継承するための市民活動が活発に進められ、様々な主体との協働によって「わがまち」のまちづくりを進めようという機運が醸成されています。

こうした動きを踏まえ、本地域計画は、第2次京丹後市総合計画〈計画期間：平成27年(2015)度から令和6年(2024)度〉の基本理念を文化財の分野から実現するための計画として位置づけるものとします。

第2次京丹後市総合計画では計画の推進に向けて、「①歴史・文化、地域産業等の地域資源を活かしたまち」、「②美しいふるさとの自然環境を守り時代に継承するまち」、長寿文化に関連する「③健やかでいきがいのある暮らしを実現するまち」、災害からの復興と防災に関連する「④安全で安心して暮らせるまち」、そして様々な取り組みを市民のみなさんとの協働で進めることに関連する「⑤お互いに支えあい、助け合うまち」、「⑥次代を担う子どもたちが「学び」を通じて夢をいただき、いきいきと成長するまち」、さらにこれらの6つの目標を総合して「⑦誰もが幸福をますます実感できる市民総幸福のまち」を目標としてあげています。

第2次京丹後市総合計画が掲げる目標は、文化財の保存と活用に深く関係するものといえます。

加えて、平成18年(2006)に策定した京丹後市文化財マスタープランでは、本市における文化財の整備に向けたテーマとして〈伝えよう「京丹後市の歴史と文化」 京丹後市まるごと歴史と文化の博物館〉を設定しています。

こうした総合計画の目標や関連計画のテーマ等を踏まえ、地域計画では文化財の保存・活用に関する「将来像」を下記のとおりと設定しました。

### 京丹後市文化財保存活用地域計画の将来像

#### 丹後半島に語り継がれる先人の息遣いが感じられるまち ～輝きの古代から煌めきの未来へ～

京丹後市第2次総合計画は概ね10年後のまちの姿を描いています。一方、本地域計画は、古代から未来につながる文化財に関する悠久の時間軸を鑑みる計画となります。このため、目標年次は概ね20年後におくこととしました。

この将来像は、地球の胎動がもたらすジオの恵みや「丹後王国」として興隆、大陸からの玄関口で繰り広げられた交流・交易など古代から異彩を放っていた本市の個性とその輝きの歴史を煌めく未来につなげていくことにより、先人の息遣いが各所で感じられるまちを目指していく「道しるべ」として設定したものです。

さらに、この20年後の将来像を実現するため、京丹後市らしさを生み出す歴史文化や文化財を「光」として捉え、概ね今後の10年間で実現を目指す基本目標を次の図に示すように5つ設定しました。

基本目標1はまだ見いだされていない文化財も含めて「光」と捉え、文化財を発見し、見つめなおすために調査・研究を継続し、将来につないでいくべき対象を明らかにすることを目指します。

基本目標2は、地域に伝わるものや知恵、先人の息遣いなど、将来につなぐべき幅広い分野の文化財

を地域の風景の中に生きる「光」と捉え、地域総がかりで輝かせることを目指します。

基本目標3は「光」としての文化財の存在価値を高めることを通じて、本市の魅力により一層磨きをかけ、文化財が本市を代表する地域資源となり、観光、地域振興など多方面に貢献するものとなることを目指します。

基本目標4は、保幼小中一貫教育の「丹後学」や生涯学習と連携し、本市の歴史文化を日々の暮らしの中の「光」と感じるができる心豊かなまちづくりを推進し、歴史文化を担う人材を育成することを目指します。

基本目標5は、持続的に「光」をつなぐ仕組みの構築を目指します。

市民や多様な主体と協働して、この5つの基本目標を達成することを通じて本市の地域計画の将来像の実現につなげていきたいと考えています。

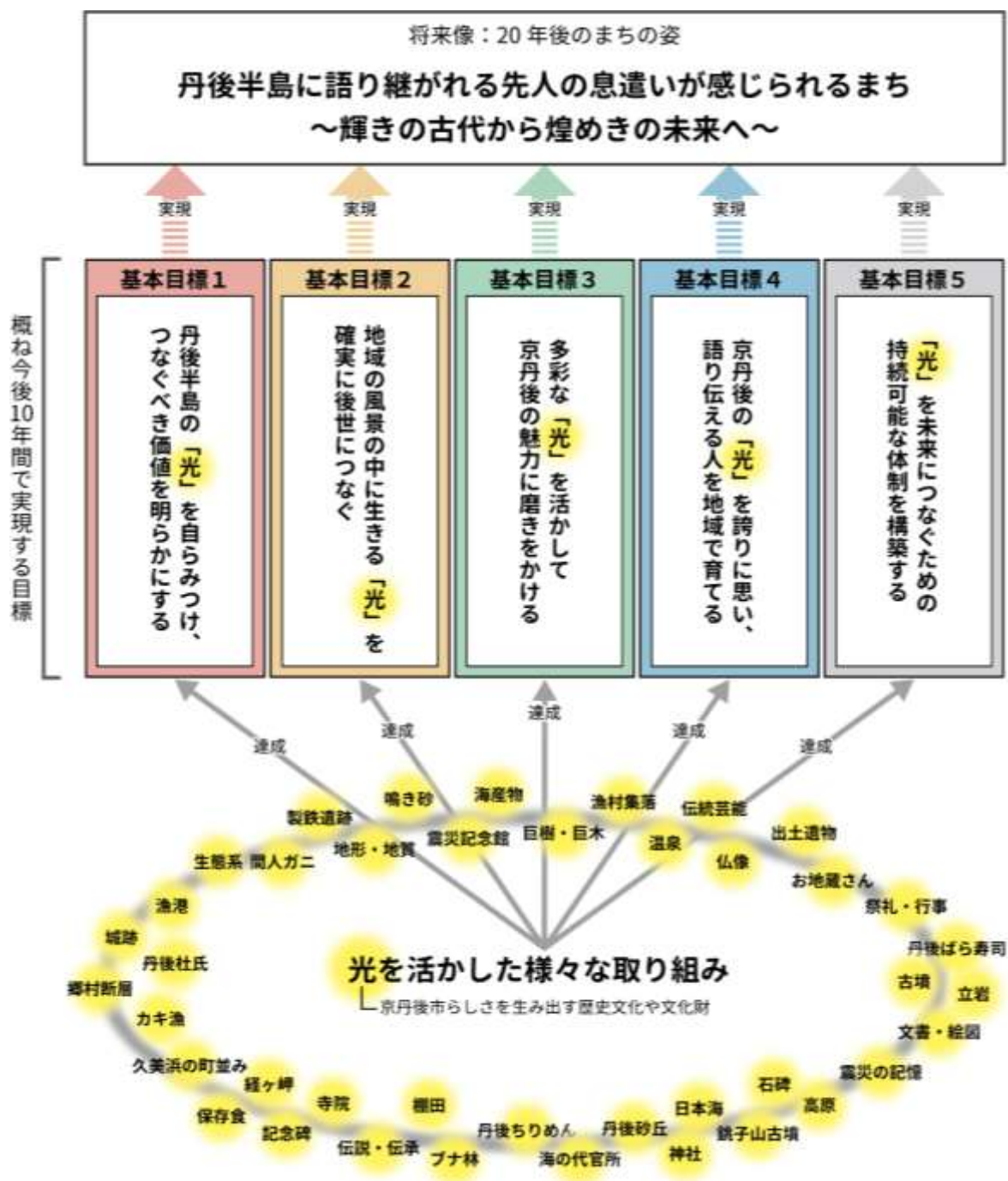


図 4-1 文化財の保存・活用に関する将来像と基本目標